

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990300051		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホームわかくさ郡山館		
所在地	奈良県大和郡山市額田部北町822-1		
自己評価作成日	2020/12/15	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosvoCd=2990300051-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和3年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は、毎年1回「生き生き祭り」開催。他部署と共にイベントを行っています。地域に定着し、参加者も増えています。 ケアマネジャーも参加し、地域の方からの介護相談を受け、グループホーム利用となる場合もあります。しかしながら、今年はコロナの影響でほぼ全ての行事が中止となり、地域の方との交流は持てませんでした。入居者様の外出レクも行えておりません。その分、中庭でお食事をしたり、おやつを食べたりして季節を感じていただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、鉄骨造り2階建ての1階部分にある2ユニットのグループホームである。居間兼食堂は中庭に面しており、明るく開放的で気軽に外気浴をすることができる。居室は比較的広く、大きなクローゼットと洗面台、ベッドと床頭台が設置されている。管理栄養士と食事専門の職員が季節の食材を使い、温かくて美味しい食事を提供している。毎月お寿司の日やサンドイッチの日の設け、利用者の楽しみになっている。また、事業所にはデイサービスや小規模多機能ホームが併設されており、全体として地域の福祉に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「グループホームわかさ郡山館の倫理」について、掲示を行っており、昼礼時に読むよう心掛けています。	事業所の3つの理念とそれを実現するための10の職員倫理を事務所に掲示するとともに昼礼時に職員で唱和して共有し、日々の介護に実践できるよう努力している。	事業所の理念を契約書か運営規程又はパンフレットに記載するとともに、ロビーなどに掲示して利用者や家族、地域の方などに理解を深める取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、クリーンキャンペーンの参加を行っています。地域のご利用者もいらっしゃり、交流を図っています。今年にはコロナの為、参加できていません。	昨年はコロナ禍で地域のお祭りが中止になり事業所で開催していた認知症カフェも中止になって地域の方との交流が減ったが、年2回のクリーンキャンペーンは事業所として実施した。事業所入り口に天然温泉の足湯を設置しており、地域の方に自由に利用していただけるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2月まで、デイサービスのフロアを利用し、「認知症カフェ」を開催しており、交流の機会を設けていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。ご家族や、自治会の方、行政の方に活動報告を行い、ご意見を伺っています。今年には2月以降、中止しており事業所便り等を市、包括に提出しています。	運営推進会議は、昨年2月以降は新型コロナウイルス感染予防のため中止し、2か月に1回活動報告や事業所だよりを会議の参加メンバーに送付し意見を伺うようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大和郡山市の介護相談員の方2名が月2回訪問されています。他事業所の悩み相談を聞かせていただき、当事業所の取り組み等を伝えています。(現在は中止中)	市から新型コロナウイルス感染症予防に対する基本的な対策についての注意喚起やマスクやアルコールなどの物品が足りているかなどの連絡があり、市と連携して感染症予防に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて、身体拘束についての話し合いは、行っています。玄関については、外部からの侵入を防止するために、施錠は行っています。	身体拘束をしないケアに取り組むことを契約書や職員倫理に記載し、実践に努力している。2か月に1回全体会議の前に身体拘束委員会を開催し、現状や課題について話し合っている。転倒防止のため夜間センサーマットを設置している方がいる。なお、玄関は安全のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修は今の所行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学べておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項を読み上げ、ご理解いただいています。随時質問には、お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に利用者様の近況等を伝えるようにしており、管理日誌、申し送りノートにも記入し職員全員が把握するようにしています。場合によっては、ケアプランにも反映しています。	利用者の要望は、職員が日々の活動の中で聴くようにしている。家族の要望は、毎月の利用料の支払や衣類・食べ物などの差し入れに訪問された時に、利用者の近況を伝えるとともに聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて、話す機会を設けています。	職員の意見は、日々の活動の中や昼礼時に聴いている。大事なことは、月1回の職員会議で話し合っている。職員は、日ごろから管理者に意見を伝えやすい雰囲気がある。また、部長や管理者と職員との面談の機会も年2回設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課表提出し、評価、指導を頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である病院への研修参加、実践者研修・リーダー研修への参加を促しています。2か月に1度は、館内研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はおこなえていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から出来るだけ話を伺っていますが、、本人から情報が効けない場合は、ケアマネジャーから情報聴取アセスメントシート記入にて把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等、要望を聞くように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを受けながら、グループホームの申し込みをされる場合があります。その場合は、グループホームのサービスの特長を説明しています。認知症の症状により、グループホームが適切でない場合は支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛付をできる方と一緒にしています。創作も一緒にしたり、日常の生活の中での作業を出来るだけ一緒にしています。又洗濯物を干したり、畳んだりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ月1回日々様子を手紙にてお知らせしています。その内容を元に面会時お話しすることもあり、ご利用者について、色々教えて頂く機会が多くあります。安心して頂けていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に特に制限は設けておらず、施設にいらっしゃった場合、前事業所の職員の面会もあります。又馴染みのお店に一緒に出掛けたりしています。※現在コロナの為、面会、外出禁止中。	現在家族との面会は、デイサービスのない日曜日に玄関でガラス越しに実施しており、オンライン面会もできる環境を整えている。また、携帯電話を所持し、家族と連絡を取っている方もいる。コロナ禍が収まれば、馴染みの場所へ出かける予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の周辺症状が避難されることのないよう、スタッフがフォローしています。食事の席等配慮し双方穏やかで居ていただけるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会や、ご家族の相談に応じています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を聴取把握し、周辺症状への対応を行っています。本人の行動を理解し対応しています。	利用開始時に、事業所での暮らし方の希望を聴いている。利用者の日々の会話や行動から職員が気付いたことは、申し送りノートに記載してニーズの把握に努めている。また、入浴時にゆっくり利用者と会話をし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート記入にて把握に努めています。ご家族から出来るだけ一緒に生活されていた時の話を伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを見つけ、提供するよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前サービス事業所担当者や、ご家族から情報を聴取し計画に反映しています。	利用者の身体的な状況と家族の要望などから課題を抽出し、職員で話し合っ介護計画が立てられている。モニタリング結果を評価し、半年ごとに計画を更新している。アセスメントや介護計画が、病気やADLが中心となっている。	アセスメント様式を工夫し、利用者の生活歴や趣味特技、生きがいなど記録し、それを介護計画に活かした利用者の笑顔が増えるプランもあれば良いと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ブレインストーミング行う場合もあります。全スタッフの気づきを把握し、計画を見直す場合があります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪におつれしたり、買い物や外出、ご家族が不可能な場合、受診等お連れしています。 ※今年は受診以外行えておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に演奏会等を行っていただいたり、地域資源の活用に努めています。今年は今度は全くおこなえておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であり、往診を依頼される方もありますが、それぞれの主治医を継続し、往診、受診の対応をしています。	事業所の協力内科医と歯科医が、月2回訪問診療を行っている。利用者個々のかかりつけ医へは、基本的に家族が付き添って受診している。また、平日の昼間は看護師が常勤しており、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に応じ看護師に指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携は、入院時から連絡をし、情報を頂いています。退院後の入所等を含め、空状況等お伝えしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人に医療機関有、入院して頂く場合が多いのが現状です。看取りを行ってくれる在宅医が不在であるのが現状です。	利用開始時に終末期の事業所の対応を、利用者や家族に説明している。利用者が重度化した場合は、経営母体である医療法人の病院に入院すること家族に勧められており、事業所内での看取りの事例はない。	事業所の重度化対応の指針を作成し、利用開始時に利用者や家族に明示して説明する取り組みが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていません。急変時に対応できるよう手順は明記しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回実施しています。夜間を想定した訓練は年2回実施しています。	年2回、利用者も数名参加して避難訓練を実施しており、内1回は地震・水害を想定して実施している。事業所は、大和川の堤防から200mほどの距離にあり、浸水の危険がある場合は建物2階へ避難することになっている。災害時に備え、3日分の飲料水や食料の備蓄と発電機を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねできていると思います。	利用者の生活歴や人格に配慮し、名前は「さん」付けで呼ぶことを基本にしており、トイレ誘導はさりげない声掛けを心掛けている。排泄や入浴の介助は、プライバシーに注意しながら利用者の希望に沿って同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけるように心掛けていますが、少ないと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいかを伺う機会は少ないと思います。外出や、レク等もスタッフが先に決定する方が多いと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助時、好みを伺ったりはできていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でしていただいています。	管理栄養士と食事専門の職員が季節の食材を使い、温かくて美味しい食事を提供している。毎月お寿司の日やサンドイッチの日を設けたり、誕生日にはケーキを準備するなど、食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の用意は、栄養課さんでしていただいております。入所時に食習慣等は伝え食材の用意をいただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、実施しています。月2回訪問歯科の受診を受けている方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入で、スタッフ全員が排泄パターンを理解ができケアを行うよう心掛けています。	排泄チェック表を利用し、適切なトイレ誘導のタイミングを把握して、トイレに座って自然な排泄ができるよう支援している。規則正しい排泄習慣を身につけられるよう支援し、おむつ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、乳酸菌飲料等を取り入れたりしています。下剤が必要な方もいらっしゃいますが、繊維質の多い食材等を心がけ使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ているとは言えない状況です。	お風呂は毎日準備し、午後の時間に1日3人ずつゆっくり入浴できるよう支援している。菖蒲湯や柚子湯で季節を楽しむことがある。敷地入り口に天然温泉を循環させて足湯を設置し、利用者だけでなく地域の方にも楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で横になっていただけるよう、環境は調整しています。又就寝の時間は決めておらず、個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チャートに明記し、スタッフ全員が把握できるよう心掛けていますが、詳細を把握するまでにはいたっていないと思います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく出来る事をしていただいています。認知症の周辺症状として、原因を把握し、穏やかに暮らしていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望には添えていないと思います。自分の言葉で伝えられる場合以外にも、行きたい場所等はあるはずですが。コミュニケーションを心がけ希望を引き出ししていく必要があると思います。	コロナ禍で利用者の買い物や散歩は控えているが、天気の良いときは車でドライブをしたり中庭に出てお茶を楽しんでいる。受診のため家族と外出し、食事をする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はしていただいていませんが、自由に使えるよう、ご家族からお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをご覧になっている利用者がいらっしやり、終日ついている場合があります。出来るだけ不必要な場合は消すように心がけています。中庭を利用し、おやつを召し上がっていただいたりと季節感を味わっていただいています。	建物の1階部分に2ユニットのグループホームとデイサービスがある。居間兼食堂が中庭に面しており明るく開放的で、気軽に外気浴をすることができる。毎月、職員と利用者で季節感のある飾りと大きなカレンダーを作り、食堂に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、離れた場所にテーブルを置いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具を持参して頂いている。又観葉植物を置いたり工夫しています。	居室は比較的広く、大きなクローゼットと洗面台、ベッドと床頭台が設置されている。使いやすい机や椅子、冷蔵庫や仏壇などが置かれ、写真や花が飾られている。居室担当職員が居室を巡回し、利用者が居心地よく暮らせるお手伝いをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を大きく書いたりしている。又トイレの周りの壁は色を変えています。		